

——患者の視点で考える医療のコミュニケーション——

佐伯晴子

一般社団法人マイインフォームド・コンセント理事長

<http://myinformedconsent.jp>

〈抄録〉

患者さんが初めて歯科医師と対面して行われる「問診」は、治療を開始するために必要な情報収集と信頼関係構築の第一歩として重要です。また、診断がつき、治療法を決める段階での「説明」は、患者さんの意思決定には不可欠です。よりよいコミュニケーションができれば信頼も得やすくなります。しかし、忙しい現場では理想的なコミュニケーションは実現困難です。何気ない言動が不信感を生む場合もありますが、専門家と非専門家のコミュニケーションではズレが起こることを意識するだけで誤解を減らすことができ、ひいては医療安全にもつながると思います。



〈略歴〉

佐伯晴子

兵庫県宝塚市生まれ 1977年大阪外国語大学（現大阪大学）ロシア語学科卒業

2007年東京医科歯科大学大学院修士課程医療政策学専攻単位取得満期退学

東京大学公共政策大学院医療政策実践コミュニティ（H-PAC）2期「患者・住民の参画」

1988~93年在伊ミラノ ヨーロッパ緩和ケア協会（EAPC）事務局にて事務ボランティア

1995年東京 SP（模擬患者）研究会設立し 2016年マイインフォームド・コンセントに改組

専門：医療コミュニケーション、医療政策への患者・市民参画

昭和大学医学部客員講師，群馬大学医学部ほか非常勤講師、日本医学教育学会名誉会員

日本コクランセンター理事（消費者）、

東京科学大学（旧東京医科歯科大学）医学部倫理委員、日本在宅医療連合学会ほか倫理審査委員、

日本大学医学部附属板橋病院医療安全監査委員

元横浜市医療安全推進協議会委員

元厚生労働省社会保障審議会医療部会委員

医学書院『話せる医療者』（共著）『あなたの患者になりたい』（単著）などを出版